

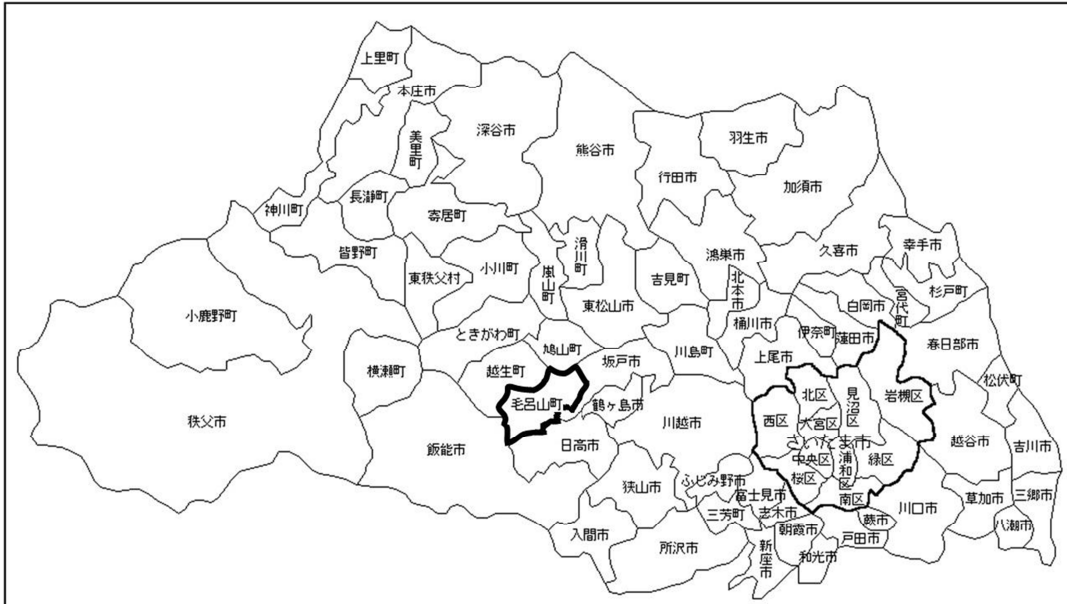
## 第2章 本町の概況

### 2-1 本町の自然条件

#### (1) 位置

本町は、埼玉県南西部に位置し、都心から50km圏が町の中央部を走る。北は比企郡鳩山町、東は坂戸市、南は日高市、南から西にかけては飯能市、西から北は入間郡越生町と5市町に隣接している。総面積34.07km<sup>2</sup>を有し、東西約9.0km、南北約7.5km、東経139度19分、北緯35度56分と東西に長い形状をなしている。

毛呂山町 位置図

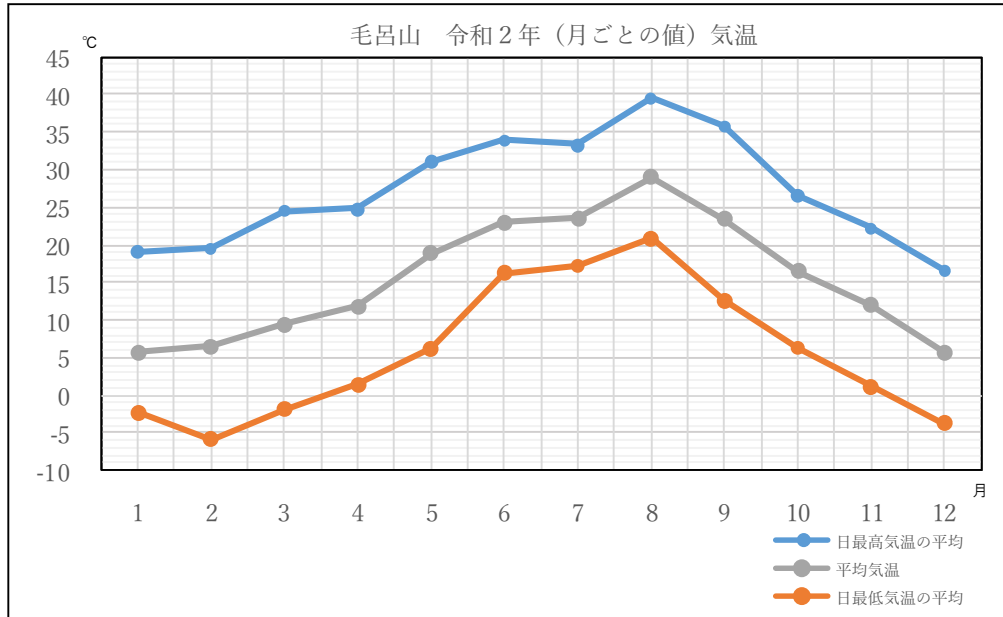


#### (2) 地勢

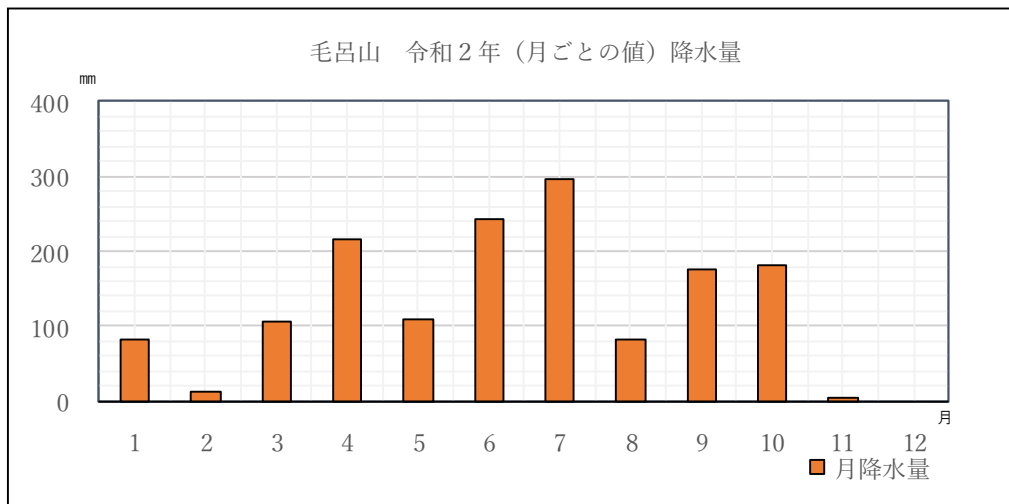
本町は、東の肥沃な関東平野と西の緩やかな秩父山地が接する八王子構造線にまたがり、大体において西部は山地、中央部は低地である。山地から低地に移るところには、一部丘陵が存在する。中央部及び東部一帯は、越辺川と高麗川の中に挟まれた標高60m前後の低地であり、表面は関東ローム層に覆われている。中央部には市街地が形成され、東部の低地は水田地帯となっている。

### (3) 気象

本町の令和2年の年間平均気温は15.5度である。降水量は7月が最も多く297.5mmで、年間降水量は1,511.0mmである。また、風速は12月が最大の27.2m/sで、年間平均風速は1.7m/sである。



資料：令和2年版統計もろやま（観測場所：西入間広域消防組合）



資料：令和2年版統計もろやま（観測場所：西入間広域消防組合）

毛呂山 令和2年(月ごとの値) 風速

風速 (m/s)	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	最大	17.0	21.7	25.1	20.2	17.3	17.7	14.0	12.8	13.9	14.3	16.6	27.2
平均	1.7	2.1	2.2	2.3	1.7	1.5	1.0	1.4	1.3	1.3	1.6	1.7	

資料：令和2年版統計もろやま（観測場所：西入間広域消防組合）

#### (4) 土地利用

本町の土地利用の現況としては、外秩父山地の山林を中心とする西部地域、市街地を主体とする中央地域、農用地を主体とする東部地域の3地域に区分することができる。畑、山林は年々減少しており、宅地、雑種地が増加する傾向となっている。

地目別土地面積 (各年1月1日現在)

単位：ha

区分	合計	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他
平成28年	3,407.0	154.5	449.2	484.3	3.6	1,381.0	27.1	412.6	494.7
平成29年	3,407.0	154.5	446.7	486.8	3.6	1,378.5	27.9	413.2	495.8
平成30年	2,911.3	154.5	445.0	488.3	3.6	1,378.6	27.9	413.4	—
令和元年	2,910.6	154.5	442.6	489.7	3.6	1,377.2	27.9	415.1	—
令和2年	2,910.1	154.1	441.4	490.5	3.6	1,375.5	27.9	417.1	—

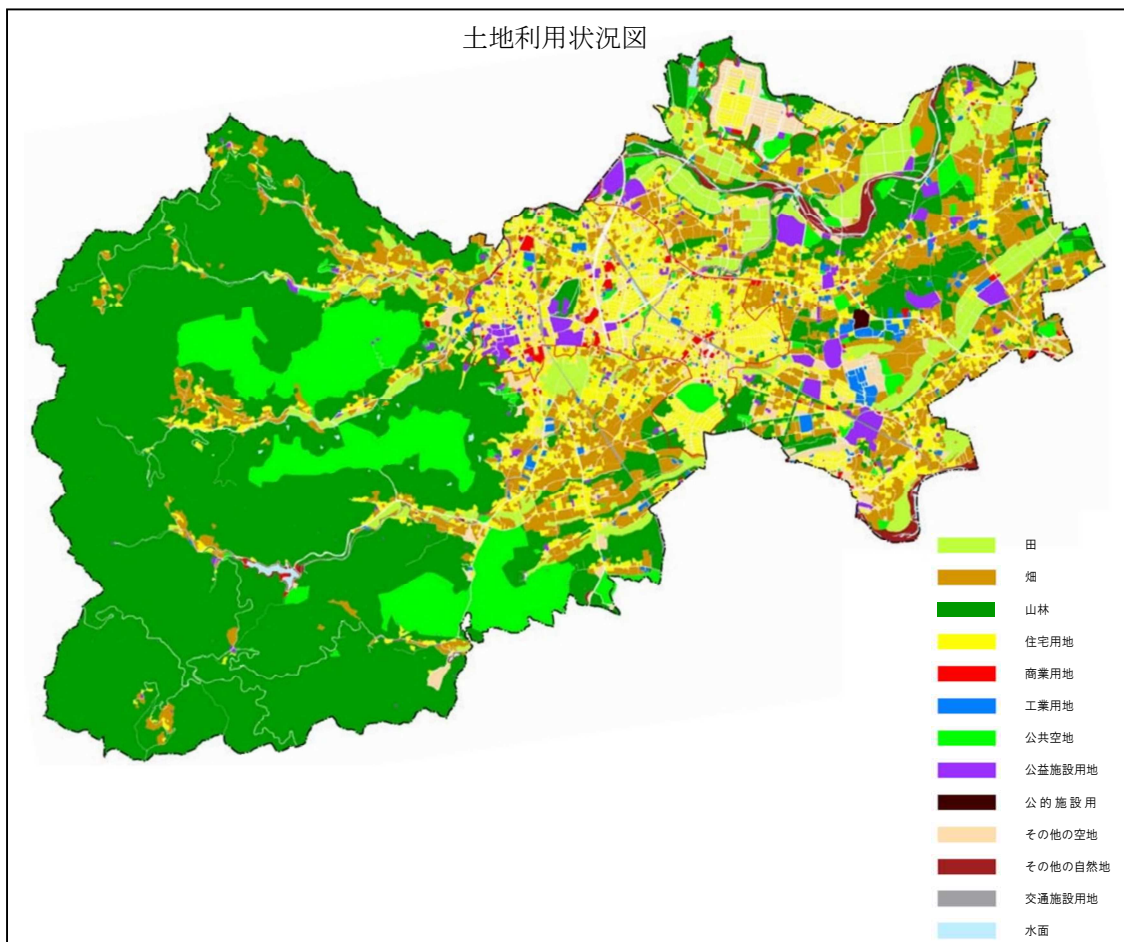
資料：埼玉県統計年鑑

※この表は、固定資産課税台帳に登録された地積で非課税も含まれる。

※雑種地とは、野球場、テニスコート、ゴルフ場、競馬場、鉄軌道地、遊園地などである。

※その他とは、墓地、境内地、運河用地、水道用地、用悪水路、ため池、堤、井溝、保安林、公衆用道路、公園及び鉱泉地をいう。

※平成30年より、その他項目公表なし。



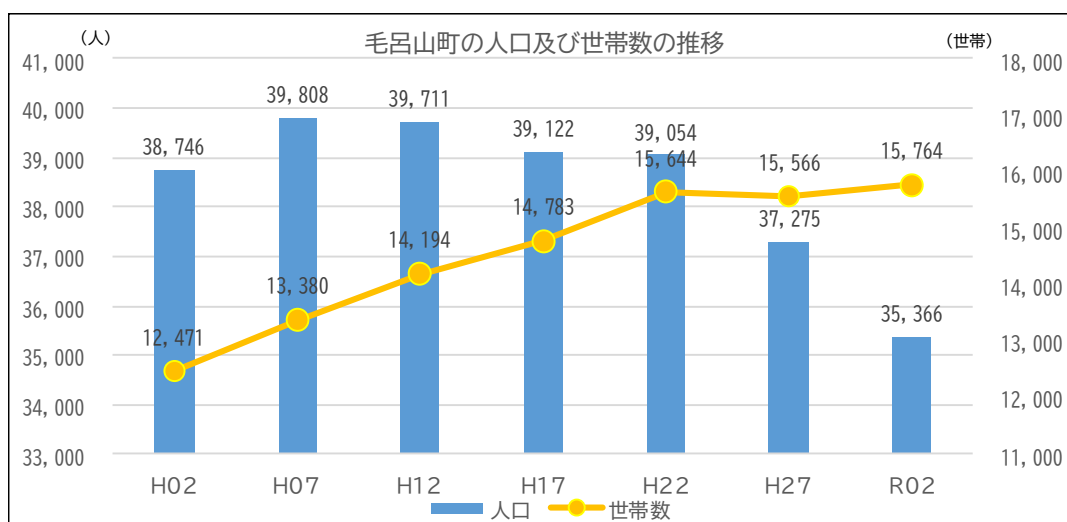
資料：都市計画マスタープラン（平成29年度）

## 2-2 本町の社会状況

### (1) 人口等

本町の人口は、昭和40年以降、増加傾向を示していたが、平成7年をピークとして減少傾向に転じ、令和2年国勢調査では35,366人となっている。なお、平成27年度に策定した「毛呂山町人口ビジョン」においては、人口減少対策の実施により令和12年で32,554人の人口規模を想定している。この想定は各種対策の実施により人口減少幅を抑制できた場合の人口となり、今後も人口の減少傾向が継続すると見込まれる。

世帯数は、平成22年まで増加傾向を示していたが、平成27年には減少に転じている。なお、平成12年からは人口が減少しているにもかかわらず、世帯数は増加又は微減にとどまっていることから、単身世帯が増加していることがうかがえる。



資料：国勢調査

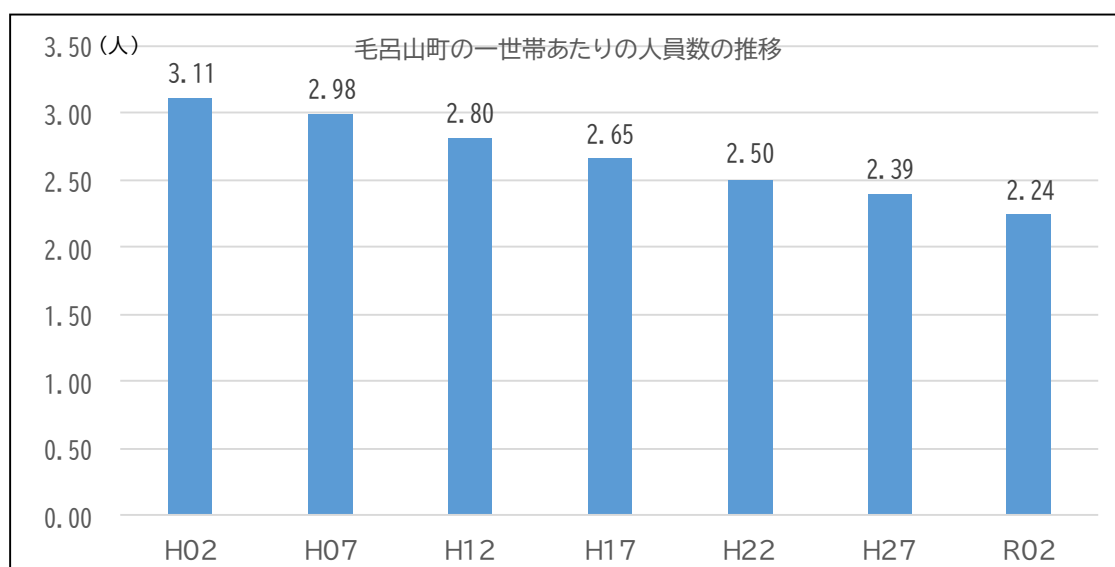
将来人口及び人口構成比

区 分		《現況》	将来人口(戦略人口)
		令和2年(2020)	令和12年(2030)
人 口		35,366人	32,554人
人口構成比	0～14歳	8.6%	10.7%
	15～64歳	57.8%	58.0%
	65歳以上	33.6%	31.3%

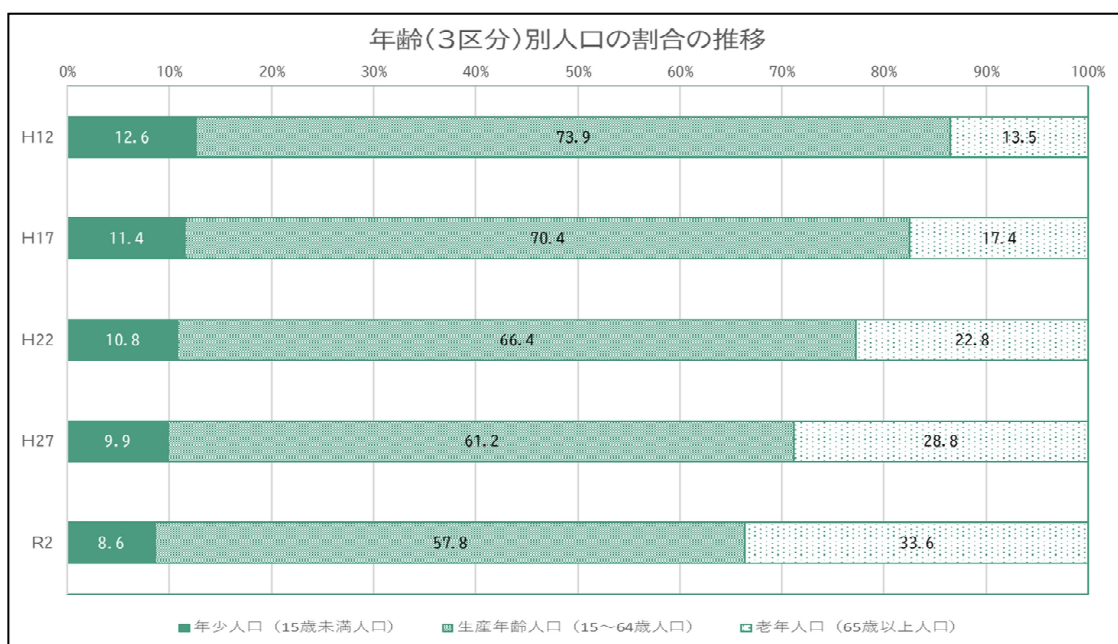
資料：第五次毛呂山総合振興計画 後期基本計画・第2期総合戦略

一世帯当たりの人員は減少傾向を示しており、平成2年は3.11人であったが、令和2年には2.24人となっている。これは、高齢者単身世帯をはじめとする高齢者の世帯、高齢者以外の単身世帯、核家族の増加によるものと考えられる。

高齢化については、年齢3区分人口（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移から顕著にみられ、老年人口の占める割合は平成12年度には13.5%であったが、令和2年には33.6%に増加している。



資料：国勢調査



資料：国勢調査

(2) 産業・経済

農業は、令和元年の農業産出額は3.7億円となっている。作目別では「野菜」の産出額が1.8億円で、次いで「米」、「果実」となっている。

主な作目別農業産出額の推移

単位：千万円

	総額	米	野菜	果実	鶏卵	その他
平成29年	55	7	23	4	11	10
平成30年	49	7	20	4	9	9
令和元年	37	7	18	5	×	7

※秘密保持の観点から、統計数値を公表していないものを「×」で表示している。資料：市町村別農業産出額（推計）

工業は、令和2年の事業所数は40事業所、従業員数が1,117人、製造品出荷額等が402億5,524万円となっている。業種別では「食料品」の出荷額が235億8,801万円、次いで、「金属」、「電子」と続いている。

工業の状況（令和2年）

	事業所数 (事業所)	従業員数 (人)	製造品出荷額等 (万円)	付加価値額 (万円)
総数	40	1,117	4,025,524	1,468,456
食料品	7	385	2,358,801	870,447
飲料・たばこ・飼料	1	5	×	×
繊維	1	38	×	×
木材・木製品（家具を除く）	1	4	×	×
印刷・同関連	2	31	×	×
プラスチック製品	1	9	×	×
非鉄金属	1	25	×	×
金属製品	8	156	621,112	180,779
はん用機械器具	1	17	×	×
生産用機械器具	4	63	144,138	60,248
電子部品・デバイス・電子回路	3	71	149,143	50,488
電気機械器具	5	97	135,381	64,910
輸送用機械器具	1	144	×	×
その他の製造業	4	72	143,025	42,133

※秘密保持の観点から、統計数値を公表していないものを「×」で表示している。

資料：工業統計調査

商業は、卸売業については平成 28 年の事業所数は 28、従業員数は 214 人、年間商品販売額は 96 億 5,000 万円となっている。また、小売業は、平成 28 年の事業所数は 178、従業員数は 1,489 人、年間商品販売額は 265 億 2,300 万円となっている。

商業の推移

単位：事務所、人、万円

	合 計			卸売業			小売業		
	事業所数	従業員数	年間商品販売額	事業所数	従業員数	年間商品販売額	事業所数	従業員数	年間商品販売額
平成 26 年	206	1,602	2,847,713	31	190	481,644	175	1,412	2,366,069
平成 28 年	206	1,703	3,617,300	28	214	965,000	178	1,489	2,652,300

資料：平成 26 年は商業統計、平成 28 年は経済センサス

### (3) 交通

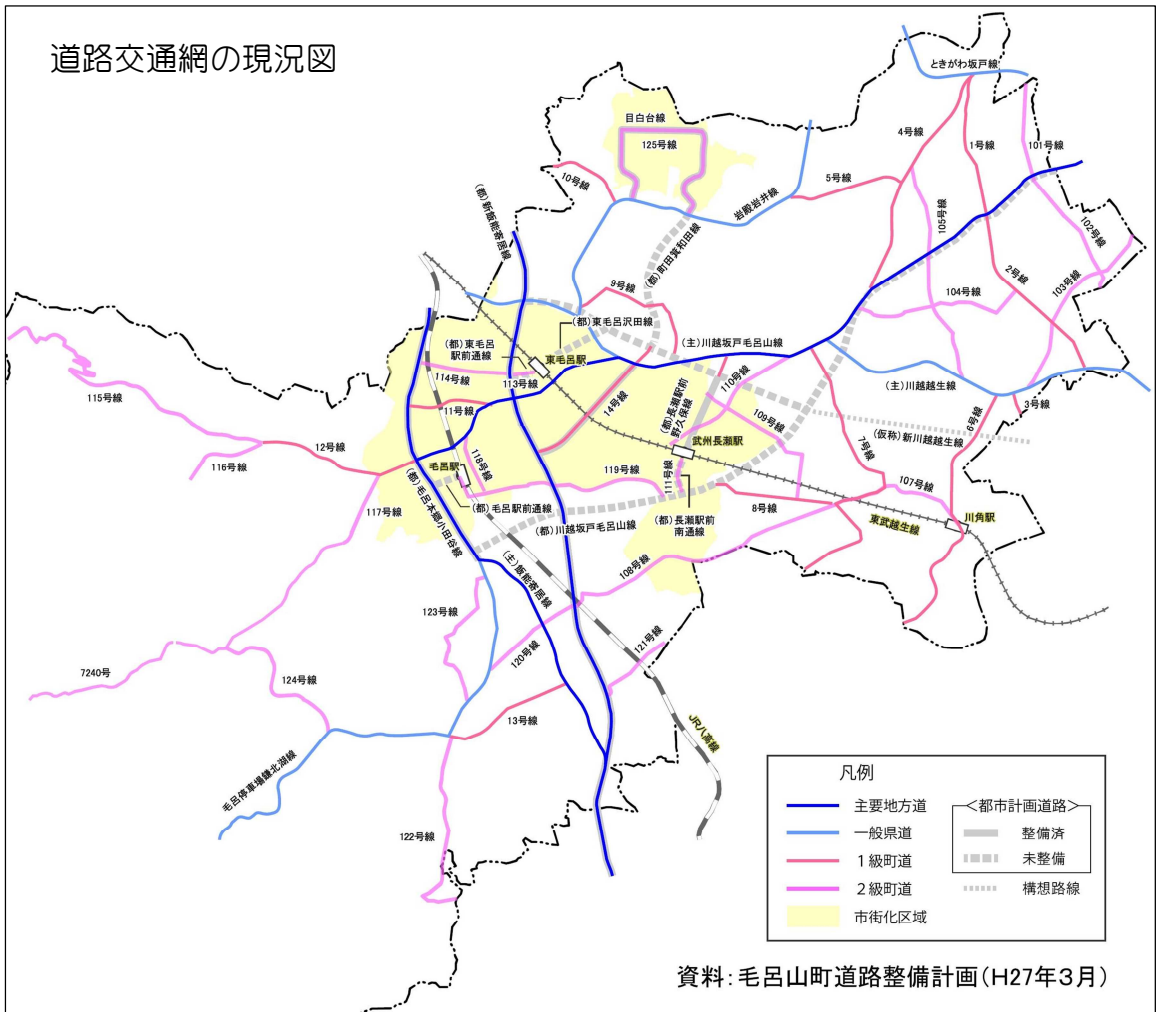
本町の幹線道路として、南北方向に主要地方道飯能寄居線、飯能寄居線バイパス、東西方向に主要地方道川越坂戸毛呂山線があり、一般県道として、川越越生線、岩殿岩井線、ときがわ坂戸線がある。

本町の都市計画道路は計11路線あり、計画延長18,500mのうち40.8%の整備率となっている（平成27年3月時）。

近年、主要地方道飯能寄居線のバイパスとしての役割を担う都市計画道路新飯能寄居線、武州長瀬駅へのアクセス道路である都市計画道路長瀬駅前野久保線などの整備により地域交通の利便性の向上が図られ、また、関越自動車道坂戸西スマートインターチェンジの整備により高速道路へのアクセス性の向上が図られている。



# 道路交通網の現況図





## 2-3 想定する大規模自然災害

### (1) 想定する大規模自然災害の範囲

町内で被害が生じる大規模自然災害を想定することとし、地震、風水害（台風・洪水・竜巻）、大雪の3種類を基本とする。

### (2) 想定する大規模自然災害の規模

町内で被害が生じる大規模自然災害として、地震では関東平野北西縁断層帯地震（破壊開始点中央）を震源とするもので、町域では震度5～6強の地域が分布することが想定されている。風水害としては、荒川水系越辺川、高麗川とその支川である毛呂川、大谷木川、葛川、宿谷川の浸水想定区域及び水害リスク情報図が公表されており、本町北東部の越辺川右岸では最大5m以上の浸水が想定されている。また、本町西部の山間部において土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域が指定されている。

#### (ア) 重要水防箇所

洪水時に危険が予想され重点的に巡視点検が必要な箇所である「重要水防箇所」は、町内を流れる一級河川越辺川、葛川、大谷木川、毛呂川（国土交通省・埼玉県管理）で9箇所ある。

番号	河川名	重要度		左右岸別	重要水防箇所 地先名	延長 (m)	重要な理由	想定される水 防工法
		種別	階級					
1	越辺川	越水	A	右	大字苦林	24	計画高水流量規模の洪水の水位が現況高を超える	積み土嚢工法
2	越辺川	越水	B	右	大字苦林	221	計画高水流量規模の洪水の水位が計画堤防余裕高を満たさない	積み土嚢工法
3	葛川	堤防高	B	左	大字西大久保 から 大字下川原	2,500	流下能力不足	積み土嚢工法
4	葛川	堤防高	B	右	大字西大久保 から 大字下川原	2,500	流下能力不足	積み土嚢工法
5	越辺川	堤防高	B	左	鳩山町大字今宿 から 大字箕和田	3,700	堤防高不足	積み土嚢工法
6	越辺川	堤防高	B	右	大字苦林 から 大字岩井	3,700	堤防高不足	積み土嚢工法
7	大谷木川	堤防高	B	左	大字長瀬 から 大字大谷木	4,200	流下能力不足	積み土嚢工法
8	大谷木川	堤防高	B	右	大字長瀬 から 大字大谷木	4,200	流下能力不足	積み土嚢工法
9	毛呂川	堤防高	B	右	大字平山 から 大字毛呂本郷	600	流下能力不足	積み土嚢工法

## (イ) 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定箇所

主に滝ノ入、阿諏訪、大谷木、宿谷、権現堂、小田谷、毛呂本郷地区などの山間部に83箇所ある。

番号	土砂災害警戒区域等の名称	住 所	警戒区域	特別警戒	土砂災害の発生原因となる自然現象の種類
1	大下-1	毛呂山町大字権現堂	○	○	急傾斜地の崩壊
2	東ウチコシ	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
3	大下-2	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
4	西ノ入-2	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
5	大久保	毛呂山町大字権現堂	○	○	急傾斜地の崩壊
6	大下-3	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
7	鎌北-1	毛呂山町大字権現堂	○	○	急傾斜地の崩壊
8	鎌北-2	毛呂山町大字権現堂	○	○	急傾斜地の崩壊
9	権現堂-1	毛呂山町大字宿谷	○	○	急傾斜地の崩壊
10	大谷木-1	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
11	大谷木-2	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
12	大谷木-3	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
13	北ヒラマツ	毛呂山町大字権現堂	○	○	土石流
14	北ナカザハ沢	毛呂山町大字権現堂	○	○	土石流
15	海老ヶ坂	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
16	申子-1	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
17	申子-2	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
18	西ノ入	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
19	西ヶ谷戸	毛呂山町大字宿谷	○	○	急傾斜地の崩壊
20	入-1	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
21	車地藏	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
22	小池山	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
23	薬師田	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
24	大谷木-4	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
25	大谷木-5	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
26	大谷木-6	毛呂山町大字大谷木	○	○	急傾斜地の崩壊
27	巽沢	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
28	車地藏川	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
29	中居沢2号	毛呂山町大字大谷木	○		土石流
30	又田沢-1	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
31	又田沢-2	毛呂山町大字大谷木	○		土石流
32	後沢	毛呂山町大字大谷木	○		土石流
33	荒田沢	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
34	長ヶ谷戸	毛呂山町大字宿谷	○	○	土石流
35	鎌平	毛呂山町大字宿谷	○	○	土石流
36	入竹-1	毛呂山町大字宿谷	○	○	土石流
37	入竹-2	毛呂山町大字宿谷	○	○	土石流
38	中居沢1号	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
39	中屋敷沢	毛呂山町大字大谷木	○		土石流
40	薬師田	毛呂山町大字大谷木	○	○	土石流
41	毛呂本郷-1-1	毛呂山町毛呂本郷	○		急傾斜地の崩壊

42	毛呂本郷-1-2	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
43	烏嶽-1-1	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
44	烏嶽-1-2	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
45	滝ノ入-1-1	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
46	滝ノ入-1-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
47	背飛ヶ谷戸-1-1	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
48	背飛ヶ谷戸-1-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
49	滝ノ入-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
50	矢ノ入	毛呂山町滝ノ入	○	○	急傾斜地の崩壊
51	烏嶽-2	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
52	澤又-1-1	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
53	澤又-1-2	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
54	澤又-1-3	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
55	澤又-2-1	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
56	澤又-2-2	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
57	澤又-2-3	毛呂山町毛呂本郷	○	○	急傾斜地の崩壊
58	けの字	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
59	みの字	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
60	この字	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
61	せの字	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
62	ての字-1	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
63	ての字-2	毛呂山町阿諏訪	○		急傾斜地の崩壊
64	ての字-3	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
65	ゆの字	毛呂山町阿諏訪	○	○	急傾斜地の崩壊
66	瀬田沢	毛呂山町小田谷	○	○	土石流
67	烏嶽沢	毛呂山町毛呂本郷	○	○	土石流
68	桂木川-1	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
69	桂木川-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
70	雨堤-1	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
71	雨堤-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
72	雨堤-3	毛呂山町滝ノ入	○		土石流
73	天ヶ平-1	毛呂山町滝ノ入	○		土石流
74	天ヶ平-2	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
75	日向	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
76	杉ノ入	毛呂山町滝ノ入	○	○	土石流
77	ふの字沢	毛呂山町阿諏訪	○	○	土石流
78	みの字沢	毛呂山町阿諏訪	○		土石流
79	るの字沢	毛呂山町阿諏訪	○		土石流
80	きの字沢	毛呂山町阿諏訪	○	○	土石流
81	ゑの字沢	毛呂山町阿諏訪	○		土石流
82	ひの字沢	毛呂山町阿諏訪	○		土石流
83	わの字沢	毛呂山町阿諏訪	○	○	土石流

## 2-4 過去に被害をもたらした災害

### (1) 地震

発生年月日	地域 (名称)	規模	主な被害
1923. 9. 1 (大正 12)	関東南部 (関東大震災)	M7. 9	死者・行方不明者 411 名、負傷者 497 名、家屋全壊 9,268 棟、半壊 7,577 棟。
1931. 9. 21 (昭和 6)	埼玉県北部 (西埼玉地震)	M6. 9	荒川、利根川流域を中心に被害。死者 11 名、負傷者 114 名、家屋全壊 172 棟。
2011. 3. 11 (平成 23)	東北地方太平洋沖 (東日本大震災)	M9. 0	震度 5 弱 (毛呂山町)。住家の一部破損 5 件、道路の亀裂、落石、窓ガラス破損、水道への影響あり。電力不足による計画停電 12 回、ガソリン不足による移動の制約があった。

※東北地方太平洋沖地震以外の被害は埼玉県内の被害。

### (2) 風水害

発生年月日	災害名	主な被害
1946. 5. 23 (昭和 21)	降 雹	約 20 分間の雷雨とともに降雹。特に箕和田と西戸に大被害。
1946. 8. 1 (昭和 21)	豪 雨	県道毛呂・高坂線 (現岩井・岩殿線) 沢田箕和田間の越辺川橋流失。用水堰の破壊流失各所に起こる。
1947. 9. 15 (昭和 22)	カスリーン台風 大 洪 水	越辺川・高麗川をはじめ町内河川みな氾濫。久保堰、西戸堰、苦林堰等大破。改築直後の越辺川橋半壊。林道被害も随所に起きた。
1948. 9. 16 (昭和 23)	アイオン台風	用水堰の破壊、水陸稲の倒伏、建物の破壊等が起こった。
1949. 8. 31 (昭和 24)	キティ台風	毛呂本郷将監淵を始め、護岸の欠潰、用水堰の破壊、水陸稲倒伏。
1950. 9. 3 (昭和 25)	ジェーン台風	毛呂本郷将監淵を始め、護岸の欠潰、用水堰の破壊、水陸稲倒伏。
1959. 9. 26 (昭和 34)	伊勢湾台風	臥竜山東南部杉檜巨木 120 本倒伏。屋敷林等多数倒伏。山林の被害も多く、また建物の被害 400 戸。
1961. 6. 27 (昭和 36)	豪 雨	町内主要用水堰ほとんど破壊、田畑冠水。
1966. 6. 28 (昭和 41)	台風 4 号	集中豪雨の川越の記録 328mm。主要用水堰ほとんど決壊。田畑冠水埋没のために一部に水稲植替田も出た。
1966. 9. 25 (昭和 41)	台風 26 号	<p>暴風を正面にうけた山林及び屋敷林の倒伏或いは折損の被害甚大。臥竜山では境内特に東側一帯の密林の巨木が押し並べて倒伏或いは折損した。被害状況は次の通り。</p> <p>倒伏 杉目通り 60cm～180cm 63 本            檜 " 60cm～180cm 236 本、60cm 以下 71 本            折損 杉 " 79cm～190cm 9 本            檜 " 61cm～211cm 20 本</p> <p>なお、町内建物の全壊・半壊・傾斜・一部破損合計 825 戸。水陸稲は倒伏とその後の秋ウンカの異常発生により、3 割以上の被害面積水稲 76 町歩 5 反、陸稲 11 町歩 8 反。県内初の災害救助法の適用あり。</p>

1982. 9 (昭和 57)	台風 18 号	住家半壊 4 件。災害援護資金の貸付事例あり。
1987. 9. 10 (昭和 62)	大 雨	床下浸水 23 件
1988. 5. 28 (昭和 63)	降 雹	午後 6 時 30 分頃から 7 時頃までの約 30 分間にわたる降雹。八高線以西の農作物に大被害をもたらす。埼玉県農業災害特別措置条例第 5 条適用。 (被害状況) 果 樹 9.5 ヘクタール / そ 菜 1.5 ヘクタール
1991. 8. 20 (平成 3)	台風 12 号	床上浸水 7 件 / 床下浸水 33 件
1999. 8. 14 (平成 11)	大 雨	床上浸水 3 件 / 床下浸水 16 件 / 急傾斜地崩壊 被災 3 件
2002. 7. 9 (平成 14)	大 雨	床下浸水 1 件 / 道路一部決壊 / ブロック塀転倒 被災 1 件 急傾斜地崩壊
2002. 7. 10 (平成 14)	台風 6 号	床上浸水 2 件 / 急傾斜地崩壊
2008. 6. 13 (平成 20)	大 雨	急傾斜地崩壊
2009. 2. 13 (平成 21)	大 雨	急傾斜地崩壊
2011. 7. 19 (平成 23)	台風 6 号	急傾斜地崩壊、傾斜地崩壊
2012. 5. 2 (平成 24)	大雨	急傾斜地崩壊
2013. 9. 16 (平成 25)	台風 18 号	一部崖崩れ
2014. 6. 6 (平成 26)	大雨	崖崩れ
2015. 7. 16 (平成 27)	台風 11 号	床下浸水
2015. 9. 9 (平成 27)	台風 18 号	床下浸水
2016. 8. 22 (平成 28)	台風 9 号	床下浸水 1 件
2017. 10. 22 (平成 29)	台風 21 号	地すべり / 岩崩れ数箇所
2018. 9. 30 (平成 30)	台風 24 号	軽症者 1 名 / 倒木、家屋損壊等 45 件
2019. 9. 11 (令和元)	大雨	床上浸水 1 件 / 崖崩れ

2019. 10. 12 (令和元)	令和元年 東日本台風	大雨特別警報が発令され、越辺川、毛呂川、大谷木川、葛川で越水が発生した影響で831人の避難者が発生し、災害救助法が適用された。 大規模な土砂流出を含め、多数の法面崩落が発生した。 河川の越水により農地の冠水も広範囲に発生し、農業被害が発生した。 (被害状況) 床上浸水 半壊 1件 / 床上浸水 13件 / 床下浸水 26件 土砂流出 / 法面崩落 / 農地冠水
-----------------------	---------------	--

### (3) 大雪

発生年月日	災害名	主な被害
2014. 2 (平成 26)	大雪	低気圧の接近・通過と上空の寒気の影響により、関東甲信越地方を中心に雪が降り続き、埼玉県では最深積雪を大幅に更新する大雪となった。熊谷地方気象台では最深積雪 62cm を観測し、町内でも転倒等による人的被害が発生したほか、鉄道の運休、道路の通行止め等、交通機関に大きな影響を及ぼした。また、ビニールハウス等の多数の農業施設に破損するなど農業被害も発生した。 (被害状況) 負傷者 軽傷3、中傷4 / 公共施設、カボット・農業施設の破損